



『 残 心 』

上尾市立上尾中学校 学校運営協議会 委員 大谷 智

皆さんは「ザンシン」という言葉をご存知でしょうか？
武道はもとより、茶道、華道など、古来より日本に伝わる武芸においては、よく使われる言葉です。

「ザンシン」とは、「残心」と書き、読んで字のごとく「心を残す」ことです。
われわれ空手家における「残心」とは、技が決まった時や相手が倒れた後でも、すぐに元の戦闘態勢に戻り、まだ来るかもしれない攻撃に備え緊張を解かないこと、つまり「心をそこに残す」ということです。この「残心」を忘れると、相手を倒したと思って油断した途端、負けたと見せ掛けた相手から不意に反撃を受け、逆に倒されてしまう…ということもあるわけです。ですから空手の道を歩む者は幼稚園児であろうが、いい歳のオッサンであろうが、技や勝負の最後には必ず「残心」しなければなりません。

日常生活の中でも似たようなことは起こりえますよね。
たとえば、せっかく上手くいったように思えたことが、最後の詰めが甘かったがために水の泡と化してしまったり、これで大丈夫だろうと最後に見直さなかったがために、最初からやり直すはめになったり…。つまり、「最後まで気を抜かない」のはもちろん、「終わった後もすぐには気を抜かずに、周りの状況やその後の事にも気を配る」こと。これこそが日常の中の「残心」であり、失敗やトラブルを防ぐコツだと私は考えます。

ただね、分かっちゃいてもなかなか出来ないのが人間ですからね。
かく言う私も、最後の詰めの甘さから何度失敗を繰り返したかわかりません。
ですから、せめてうちの道場の子供達には、どんな時にも「残心」を心掛けるよう、平日頃から指導しています。

たとえば、「脱いだ靴はきちんとそろえて端に寄せるか、下駄箱があればキチンとしまう」これも立派な「残心」です。
自分が靴を脱ぎっ放しにしたら、後から来た人の邪魔になるだろうし、帰りもまた履くのに手間取りますよね。きちんと靴が揃えられていれば、帰る時に出口が混雑することも、人の靴を踏んづけることもなくなります。また、ショッピングセンターなどの入り口によくある大きなドアを押して入る時も、自分が入ってからドアを放すまでのほんの数秒間、自分の後ろに「残心」出来れば、すぐ後ろから続いて入ってこようとしている人が、閉まろうとするドアに激突する危険も避けられるわけです。その他にも、数えだしたらきりがありませんね。

つまり、自分の言動に、ほんの数秒間、心を残す余裕を持つことが出来れば、うっかりミスや人のトラブルなどを確実に減らすことが出来るのです。

こうして言葉にしてみると、私自身あらためて「残心」の大切さを確認することが出来ました。
有難いことです。私もまだまだ毎日が修行の身、また今日から新たに「残心」に務めてまいります。

「言うは易く、行ふは難し」ですが、まずは自分の言動の三秒後まで心を残し、周りの気配を感じ、その後を想像できる、サウイフモノニ ワタシハナリタイ。だってオイラ、にんげんだもの……。